

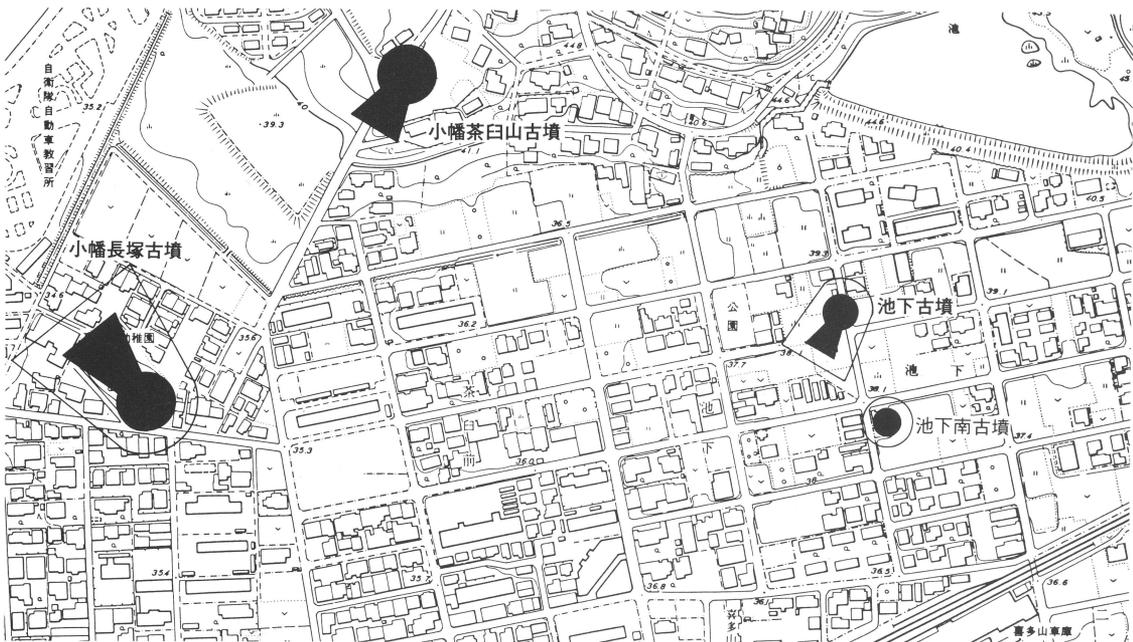
池下古墳

名古屋守山区小幡地内に所在する池下古墳は、近接する小幡茶白山古墳・小幡長塚古墳の3基の前方後円墳を中核として、周辺の小円墳をも含めて小幡古墳群を形成している。古墳群は庄内川と矢田川にはさまれた小幡台地（熱田面）と呼ばれる洪積台地上に立地する。池下古墳は墳丘長約40mの小型の前方後円墳で、後円部はすでに破壊されて前方部のみ残存する。出土遺物から5世紀末葉の築造と考えられ、外部施設として周濠が存在し、埴輪が使用されていることも知られている。

池下古墳前方部とその南に位置する池下南古墳が名古屋環状2号線建設予定地内に所在するため事前調査が必要となり、そのため今年度は池下古墳東周濠の一部と池下南古墳（調査面積1,675㎡）の調査を実施した。（赤塚次郎）



池下南古墳検出状況



池下古墳周辺地図 (1/3000 名古屋市都市計画基本図)